



伊丹市幼児教育ビジョン

豊かなふれ愛でひろがる幼児教育
～ 「愛情」「自然」「ことば」 ～



幼児教育キャラクター
い・た・みちゃん

itami

はじめに

本市では、これまで、公私立幼稚園や保育所（園）、認定こども園等の就学前施設が、それぞれの教育理念のもとに幼児教育を推進してまいりました。

国においては、平成 29 年 3 月に幼児期における教育・保育の指針となる幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領が改訂され、幼児教育に関する記載がおおむね共通化されました。これからの幼児教育は、施設の種別を越えて、共に日本の幼児教育を推進していくことになりました。

この先の社会は、グローバル化や、ICT（情報通信技術）をはじめとする AI（人工知能）、IoT（物のインターネット）といったテクノロジーが想像を超えて進展するなど、目まぐるしい速さで変化し続けることは間違いありません。

子どもが、このような時代をたくましく生き抜いていくためには、基本となる「知識や技能」のみならず、その知識や技能をもとに「問題を発見し、自ら考え、判断して問題を解決する力」、「他者と協働して新しい価値を創り出す力」、「学び続ける意欲や姿勢」などを培う必要があり、幼稚園、保育所、認定こども園等の就学前施設においては、これらの「資質や能力」の土台を育んでいくことが期待されています。

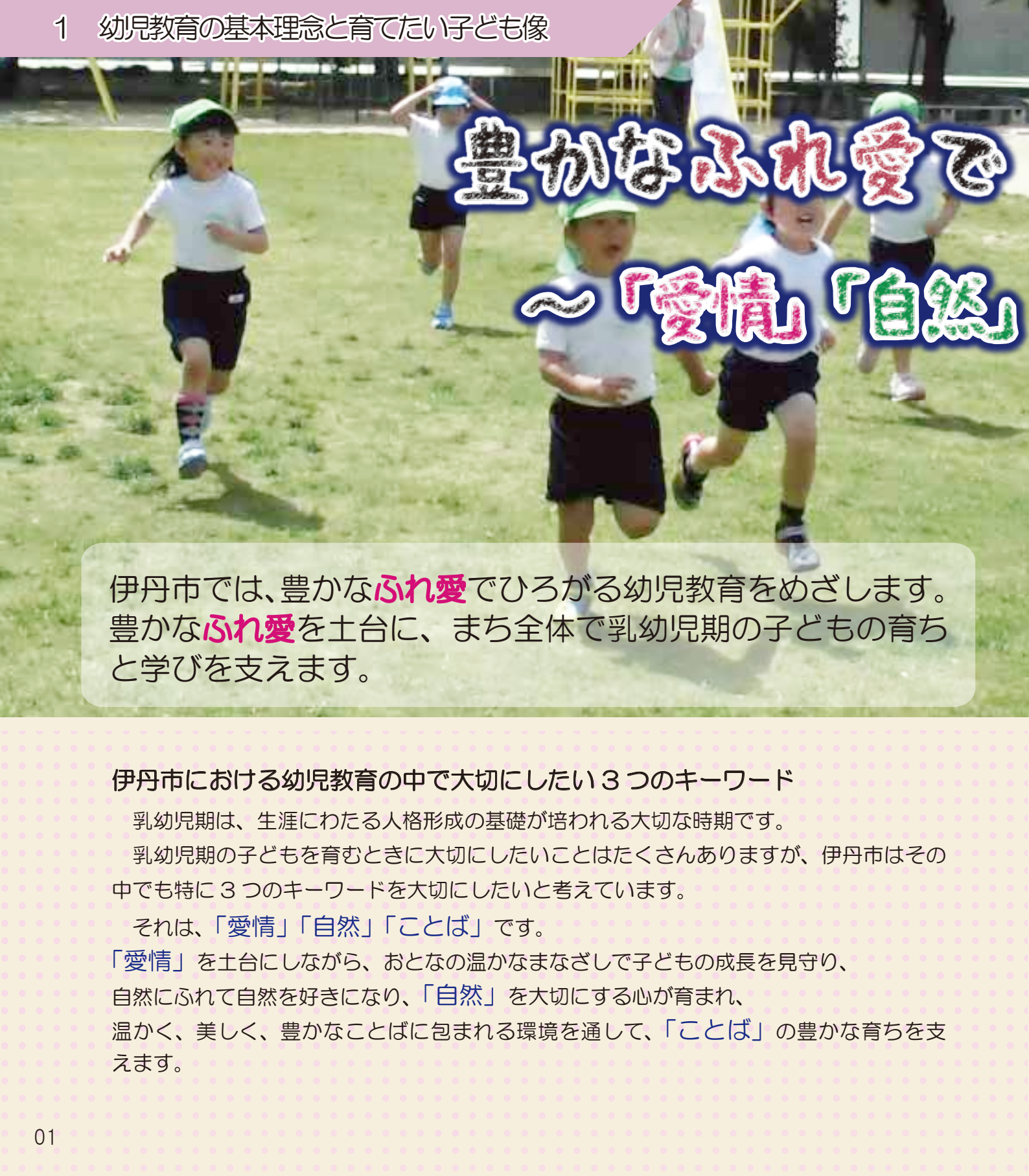
このようなことから、本市では、伊丹市としての幼児教育理念と育てたい子ども像を定める「伊丹市幼児教育ビジョン」を策定します。

自然や愛情、ことば文化に着目した本市ならではの幼児教育ビジョンのもと、一人ひとりの子どもがふるさと伊丹を愛し、自らの夢の実現に向かって、未来を切り拓いていける力を身に付けることができるよう、公私立の幼稚園、保育所（園）、認定こども園等の保育者、学校関係者、保護者、地域の人々と共に、幼児教育の充実に取り組んでまいります。

平成 30 年（2018 年）3 月 伊丹市教育委員会

目 次

1	幼児教育の基本理念と育てたい子ども像 ……………	1
	（１）基本理念	
	（２）育てたい子ども像	
	（３）３つのキーワード＜愛情・自然・ことば＞	
2	遊びを通して学ぶ子どもたち ～質の高い幼児教育とは～ ……………	11
	（１）遊びを通して学ぶ	
	（２）豊かな遊びと学び	
3	これからの幼児教育の充実をめざして ……………	15
	伊丹市として取り組むこと	
	① 豊かな保育環境の充実	
	② 保育者の資質向上	
	③ 一人ひとりに応じた子どもの支援の充実	
	④ 幼児教育から小学校教育への接続	
	⑤ 保護者支援	
	⑥ 地域とのつながり	
4	参考資料 ……………	24
	・ 幼児期に育みたい資質・能力３つと 幼児期の終わりまでに育ってほしい１０の姿	
	・ 伊丹市内の就学前教育・保育施設	
	・ 幼児教育ビジョンの策定趣旨と経過	
	・ 幼児教育ビジョンの位置づけと計画期間	
	・ 伊丹市幼児教育ビジョン策定委員会 委員名簿	



豊かなふれ愛で ～「愛情」「自然」

伊丹市では、豊かなふれ愛でひろがる幼児教育をめざします。
豊かなふれ愛を土台に、まち全体で乳幼児期の子どもの育ち
と学びを支えます。

伊丹市における幼児教育の中で大切にしたい3つのキーワード

乳幼児期は、生涯にわたる人格形成の基礎が培われる大切な時期です。

乳幼児期の子どもを育むときに大切にしたいことはたくさんありますが、伊丹市はその中でも特に3つのキーワードを大切にしたいと考えています。

それは、「愛情」「自然」「ことば」です。

「愛情」を土台にしながら、おとなの温かなまなざしで子どもの成長を見守り、

自然にふれて自然を好きになり、「自然」を大切にする心が育まれ、

温かく、美しく、豊かなことばに包まれる環境を通して、「ことば」の豊かな育ちを支えます。

ひろがる 幼児教育 「ことば」～

愛情

尊い命と
異なる個性との
ふれ愛

自然

身近で豊かな
自然との
ふれ愛

ことば

豊かで美しい
ことばや表現との
ふれ愛

伊丹市は、「愛情」「自然」「ことば」の3つのキーワードで、
乳幼児期の子どもの育ちと学びを支えていきます。



育てたい子ども像

自分や周りの人に
愛情をもち
主体的に活動する
子ども

愛情

夢中になって
遊び
よく考える
子ども

生命を大切にし
豊かな感性をもつ
子ども

自然

しなやかに
人とつながり
表現する
子ども

ことば

育てたい子ども像の実現に向けて

「愛情」「自然」「ことば」において、大切にしたいことは何でしょうか。
子どもに育てたい力と、おとなが大切にしたいことは何でしょうか。

「愛情」「自然」「ことば」の中で、大切にしたいことは
どのようなことかを考えます。

子どもは、「夢中になって遊ぶ」ことを通して育っていきます。
では、なぜ遊びが大切なのでしょう。
また、質の高い幼児教育とはどのようなものなのでしょう。

「遊び」の重要性や質の高い幼児教育について、実際に
子どもが遊ぶ姿から考えます。

質の高い幼児教育を実現するために、「愛情」「自然」「ことば」を柱にしながらどのように取り組むのでしょうか。

伊丹市は、次のことに取り組んでいきます。

- ① 豊かな保育環境の充実
- ② 保育者の資質向上
- ③ 一人ひとりに応じた子どもの支援の充実
- ④ 幼児教育から小学校教育への接続
- ⑤ 保護者支援
- ⑥ 地域とのつながり

国における保育・幼児教育の指針はどのようなものなのでしょう。

幼稚園教育要領、保育所保育指針、
幼保連携型認定こども園教育・保育要領

尊い命と異なる個性とのふれ愛

人は、自分のありのままの姿を受け止められ、愛されて育つことで、自分を大切にする心、周りの人やものを受け止め、愛する心が育まれていきます。

ことばでのやり取りができない乳児のときから、泣くなどの働きかけに、周りのおとなが温かく応答してくれる、不安や欲求不満があるとき、常に寄り添ってくれるおとながいる等の体験を繰り返す中で、「自分は価値のある存在なんだ」という自尊感情と、人への信頼感を身に付けていきます。



幼児教育を考えると、まずは、「愛情」を土台とし、一人ひとりの子どもが周りの人に愛されて育つことを大切にします。一人ひとりの個性はかけがえのないもので、大切にされなければいけません。

そこで「愛情」については次のことを大切にします。

① ありのままのわたしとあなたを大切にする

子どもにとって大切なのは、ありのままの自分を愛されて育つこと。

「〇〇ができるからあなたが大切」ではなく、ありのままの自分を愛されることが何よりも大切なのです。

愛情を受けて育つことで、子どもは、周りの人や様々な命、身の回りのすべてのものを愛する人に育っていきます。



愛情

② 一人ひとりみんな違う～多様性を認め合う～

人は一人ひとり違ってあたりまえです。

ありのままの「わたし」と「あなた」をお互いに認め合う中で、「じぶん
でいいよ」という自分を大切にできる心、「あなたでいいよ」という人を肯
定できる心が育まれていきます。

乳幼児期から様々な個性に出会い、関わり、つながり、ときにはぶつかる
など、様々な経験を通して人を好きになり、多様な人がいることや人とは
素晴らしい存在だということを学びます。そのことが、子どもが将来、
すべての人を大切に、共に生きていける社会を創り出すための原動力に
なります。

③ 「お互いさま」の子育てを

すべての子どもがありのままを愛されるためには、子どもに関わる様々
なおとなが、目の前の子どもに安心して愛情を注ぐことができる環境を作
ることが大切になります。

「お互いさま」と言って、できる人が、できるときに、できることをして、
おとな同士がつながり、地域で支え、まち全体で「愛情」を土台とし、乳
幼児期の子どもを育みます。

「まちづくりは人づくりから」…。伊丹市はこれまでも、「お互いさま」
で成り立つ人と人とのつながりを大切に、まちづくりを進めてきました。

伊丹市に住む 0 歳児の赤ちゃんからお年寄りまで、一人ひとりが大切に
される、そんなまちでありたいと願います。



伊丹市は、子どもと様々な人とのふれ愛を通して、
子どもを「愛情」で支え、個性が尊重されることを願います。



身近で豊かな自然とのふれ愛

伊丹市は、都会にありながら豊かな自然に恵まれています。昆陽池公園をはじめとする数々の公園、緑地やたくさんの虫に出会い、親しむことのできる昆虫館など、自然と共生関係にあります。

乳幼児期は人生の中で興味・関心の対象がひろがる時期であり、自然の面白さ、美しさ、不思議さなどに直接ふれ、五感を大いに使う経験を通して、様々な感情や心を育みます。

そこで、「自然」については次のことを大切にします。



自然

① 自然の面白さ、美しさ、不思議さを感じる

植物にふれ、色や形の違いに気づいたり、匂いや感触を味わったり…。身近な自然にふれて遊ぶ機会が増えてくると、その面白さ、美しさ、不思議さに心を動かされるようになります。

このような経験を繰り返し、様々な事象に興味や関心をもつようになっていくことが大切です。

② 自然とふれあい豊かな心を育成する

自然との出会い・ふれあいによって、興味・関心、豊かな感性、好奇心・探究心、思考力、表現力の基礎、美的感覚、科学性の芽生え等が育われます。

伊丹市の財産である豊かな自然をいかし、日々の生活の中で、子どもがいつでも自然を身近に感じられるようにするなど、自然との関わりを大切に、子どもに豊かな心を育みます。

③ 自然に対する畏敬^{いけい}の念をもつ

子どもは、命あるものの世話をしたり、身近な動植物とふれあったり関わったりすることを通して、命に親しみ、大切にしようとする気持ちをもつようになります。ときには自然事象を通じて、自然の厳しさや脅威を感じ、自然の偉大さを知ることもあります。

このように、自然との関わりを通して、自然に対する畏敬の念をもつことは大切です。



伊丹市は、子どもと「自然」とのふれ愛を通して、豊かな感性を育み、生命の尊さに気付くことを願います。



豊かで美しいことばや表現とのふれ愛

「ことば」は様々な体験や人とのやりとりの中で、ひろがりと深みを持ち、身に付いていきます。

そこで、「ことば」については次のことを大切にします。

① 温かな語り

乳児期の子どもに、語りかけたり、歌いかけたりすると、語りかけ自体は一方通行に見えますが、子どもは笑ったり、目で追ったり、指をさしたり、いろいろな姿が見られます。

乳幼児期の子どもは、ことばを話さないときから、身近な人との関わりの中で温かな語りかけを通して、コミュニケーションの基礎を育んでいきます。

② 豊かで美しいことばの文化との出会い

ことばは、単に意味や内容を伝えるだけではなく、響きやリズムなど音としての楽しさや美しさがあります。

絵本や紙芝居、温かな語りの素話（すばなし：絵本や紙芝居などを使わず、物語などを話すこと）との出会いは想像する楽しさを育むとともに、ことばの様々な楽しさや美しさに気付きながら、ことばの感覚を豊かにします。

ことば

③ しなやかな表現

子どもは、嬉しいことや楽しいこと、自然などの身近な環境と関わり、心を動かす出来事に出会い、自分の気持ちや考えを、身振り手振りやことば等で表現しようとしています。

幼児期のことばの発達は、個人差が大きく、表現の仕方最初は自分本位なところがあったりします。しかし、温かな人間関係を基盤にした周りの人との関わりの中で、他者の表現やことばにふれ、相手や場面に応じた表現の仕方を身に付けるようになります。

自分の気持ちを表現する喜び、身近な人とやりとりする楽しさ、相手の気持ちを思いやる優しさなどを知り、人とつながり、しなやかな表現力を身に付けます。



伊丹市は、平成 18 年度、『読む・書く・話す・聞く』ことば文化都市伊丹特区』の指定を受け、豊かな表現力、そして、国際社会、情報社会に対応できる優れたコミュニケーション能力を育むため、「ことばと読書を大切にする」、伊丹ならではの特色ある教育を推進してきました。

伊丹市における「ことば」を大切にした教育では、「薫習(くんじゅう)」を大切にしてきました。薫習とは、香をたく部屋にいと、その香りがいつの間にか衣服にしみつくように、優れた文化にふれる中で、意識していなくても自然に感化されることを意味しています。



伊丹市は、豊かで美しく、温かな「ことば」とのふれ愛を通して、豊かなことば・豊かな表現が子どもに「薫習」されることを願います。



なぜ遊びが必要なのでしょう？

子どもにとっての遊びとは、単なる時間つぶしや休憩ではありません。
遊びや体験の中から、生きていく上での必要な力を身に付けていきます。

遊びは、「面白いから」「楽しいから」取り組まれるものです。

子どもは、一人ひとり、好きなことややりたいことがあり、集中したり、没頭したりして真剣に遊んだ結果、様々な力を身に付けていきます。

何よりも大切なことは、
子どもが、自分で、好きなことや、やりたいことを見つけること、
その楽しさや喜び、悔しさなどを共感できる仲間がいること、
その姿に共感し、温かいまなざしで見守るおとながいること、
子どもにとって、関わりたくなる環境があること、
豊かな自然が周囲にあること…。

これらが幼児教育の充実につながります。

(1) 遊びを通して学ぶ

乳幼児期の子どもは、

- ・体を動かす楽しさや、自分の力で行動することに充実感をもつこと、
- ・身近な人と親しみ、信頼感をもち、友達と力を合わせること、
- ・身近な環境に自ら関わり、興味・関心をもって、発見や不思議さを感じる事、
- ・自分の気持ちをことばで表現したり、絵本や物語に親しみ想像力を膨らませたりすること…など、

様々な経験を通して、人と関わる力や考える力、表現する力、感性などを身に付けていきます。

こうした一つずつの力は個別に身に付くものではなく、様々な力が絡み合いながら育っていきます。こうした力は、遊びや生活などの様々な体験を通して、少しずつ育まれるものです。

伊丹市では、子どもが主体的に遊び、様々な体験を通して学ぶことこそが、質の高い幼児教育であると考えます。



2 遊びを通して学ぶ子どもたち～質の高い幼児教育とは～

遊びを通して学ぶとは、どのようなことなのでしょう？
実際に遊ぶ姿から、何を楽しみ、どのようなことを感じ、学んでいるのか分析してみましょう。

幼い子どもにとって、新聞紙を使って遊ぶことはとても楽しい遊びです。
新聞紙は自分の力で簡単に形を変えることができます。丸めたり、ちぎったり、くしゃくしゃにしたり、何かに見立てたり…。
新聞紙は身近にある素材ですが、思いきり遊べて満足感が味わえるものです。
この遊びの中で、体全体を使って、様々なことを感じ、学んでいます。

**つまむ・つかむ
ひっぱるなど
手指の力**

ビリビリって
やぶれたよう
ちぎってみよう
まるめてみよう

興味・好奇心

なんだ、これは？

**ふれる・聴く
身体の諸感覚**

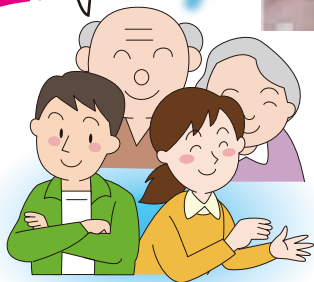
さわると
ガザガザ音がするよ
くしゃくしゃにしてみよう



共有・共感

おもしろいね
気持ちいいね

温かい語いかけ



なんだか気持ち
いいね

**友達をみる
まねる**

いっしょに
ねころんでみよう

あっボールみたい
なげてみたいなあ

**おもしろさ・不思議さを
感じさせる
感性と表現力**

子どもが自分の気持ちをわかってくれる「この人に伝えたい」と安心感をもち、思うことが、コミュニケーションを深めていきます。

(2) 豊かな遊びと学び



子どもと同じ目線に立って、ものを見つめたり、一緒に考えたりすることによって、子どもの心の動きが見えます。

目的

今日もキャンプごっこしよう
私はジュースを
作る役ね

役割分担 社会性

友達との共有

昨日の
つづきをしよう

物の扱い方 性質・仕組み を知る

そーっと
水をいれて

自尊感情

本物の
ジュース
みたいに
できた

豊かな 感性



バーベキューのときに
あれもいるよね

イメージを 豊かに

発見・不思議

オシロイバナって
つぶすと
こんな色が
できるんだ

大切に使おう

感謝

子どもは、生活の中で経験したこと、楽しかったことを遊びで再現します。
夏休みにキャンプに行った子どもたちは、9月、幼稚園が始まると、遊びの時間にキャンプごっこをはじめました。
バーベキューのときに飲むジュースががあると、オシロイバナを使っのジュースづくりが始まりました。
すりばちやすりこぎなどの道具をうまく扱い、真剣にオシロイバナをすりつぶし、香りや感触を味わっています。

遊びながら、人との関わり方を知り、ルールに気付いたり、考え、工夫したり、思考力の芽生えにつながったりします。
これらは、経験を積み重ねることで確かな学びとなり、社会生活を送るための基礎となります。

3 これからの幼児教育の充実をめざして

乳幼児期の子どもは、日々の生活における様々な経験を通して、新たな世界に出会い、感じたり、考えたりしながら学びをひろげていきます。

その土台となるのが、乳児期の育ちです。

乳児や 1、2 歳児など発達過程の初期にある子どもにとっては、何よりもまず一人ひとりの子どもが快適に生活でき、健康で安全に過ごし、生理的欲求が十分に満たされることが大切です。

そして、子どもの様々な欲求に対して、おとなは、愛情豊かに、応答的※に関わることで、愛着のあるおとなへの安心感を基地として、自分の身近な環境に向かって探索をはじめようようになります。

※応答的…子どもの心の動きを、表現や動き、その場の状況などから読み取り、こたえるような関わり方



このように、一人ひとりの子どもが大切に育まれることが、教育が成り立つ大前提です。

また、0歳児から就学するまでの乳幼児期の子どもの成長は、生涯の中でも最も著しい時期ですが、一人ひとりのペースはそれぞれ違います。

乳幼児期の発達の段階を十分に理解し、個人差に応じた教育を大切にします。

伊丹市は、すべての就学前施設において、保護者や地域の方と協働する中で、「愛情」「自然」「ことば」を柱にしながら、次のことに取り組み、幼児教育を充実させていきます。



3 これからの幼児教育の充実をめざして

①

豊かな保育環境の充実を図ります

子どもが生活の中で、友達、自然事象や自然物、遊びに使う道具や遊具、素材、絵本など様々な環境と出会い、豊かな遊びが実現するための保育環境を充実することが必要です。

○一人ひとりの興味・関心や発達に応じた遊びができる環境を整えます。

○身近なおとなや友達と関わり、思いを伝え合ったり、一緒に遊びをひろげたり、ときには意見がぶつかり我慢をしたり、ゆずり合ったり、集団の中でルールを作ったりできるような遊びとの出会いを大切にします。

○五感（視覚、触覚、聴覚、嗅覚、味覚）をふんだんに使う体験を充実します。

○身近な四季折々の自然（動植物、水、砂、土、風など）にふれる体験と、いつでもふれることができる環境を作ります。

○発達や年齢に応じた絵本や物語がいつでも身近にあり、おとなの温かな語りかけにふれることができるような豊かなことば環境を充実します。



②

保育者の資質向上に努めます

保育者は、子どもの育ちを支える存在であり、子どもに大きな影響を与える環境の一つとして重要な役割を担っています。そのため、保育者は、常に資質や技能を磨きその専門性を向上させていくことが求められます。

○子どもを一人の人間として尊重し、丁寧で、受容的、応答的な保育を行います。

○「遊びを通した学び」を読み取り、次につなぎます。

- ・ これまでも、幼児教育では「遊びを通した学び」を実践してきました。今後は、幼児教育の重要性や「子どもは遊びや実体験を通して学ぶ」ということを、小・中学校、保護者、地域などに発信していきます。
- ・ 子どもの遊ぶ姿から何を学んだのかということを保育者自身が分析し、周りに発信できること、そして翌日の遊びにつなぎ、子どもの遊びにひろがりや深さをもたせることを大切にする必要があります。

○研修・研究を充実する。

- ・ 各園では、自園の実態に応じた研修・研究を推進します。また、幼児教育センターや拠点園※において、各園の研究を推進するための支援の構築や合同研修を実施し、公立や私立、施設の種別を越えて共に学んでいきます。

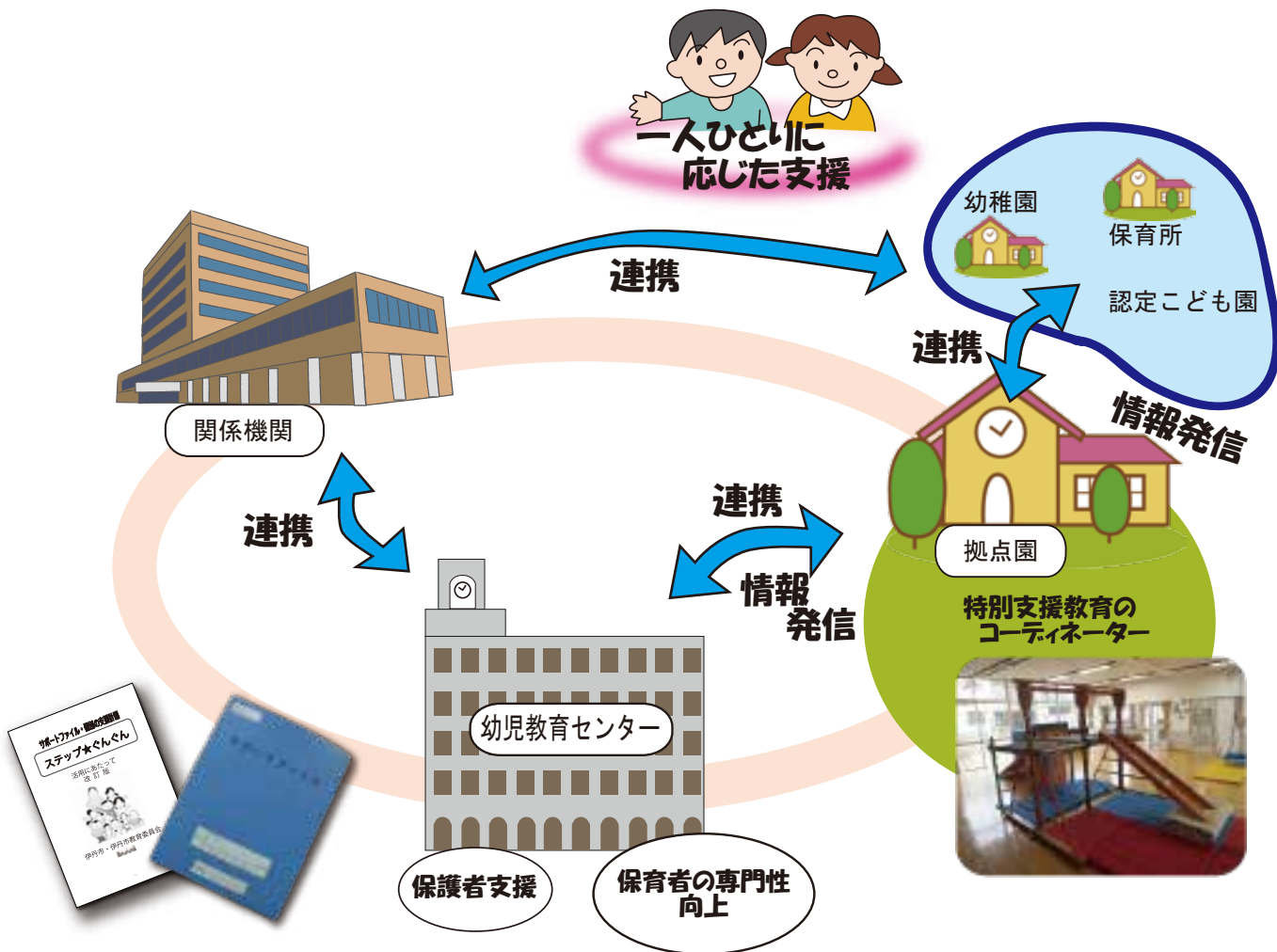


※拠点園…各地域の公立幼稚園や認定こども園などから指定する園

③ 一人ひとりに応じた子どもの支援の充実を図ります

一人ひとりの子どもが、生活の中での困難を改善し、安心して遊び、仲間とふれあい、つながり、もてる力を発揮し、自信をもつことが大切です。

- 子ども自身が友達のよさを知ったり、自分と友達との違いに気付いたりしながら多様性を認め合える仲間づくりを推進します。
- 一人ひとりの発達の特性における理解と、個に応じた支援を充実します。
- 一人ひとりの子どもの生活状況に応じた支援を充実します。
- 拠点園、幼児教育センター、関係機関と連携しながら、保育者の専門性の向上を図るとともに、保護者支援を充実します。



④

幼児教育から小学校教育への接続を図ります

幼稚園、保育所、認定こども園等の就学前施設では、乳幼児の発達の特性に応じて遊びをはじめとする自発的な活動を中心にした生活を重ね、教育・保育を行っています。

小学校の授業や学習に向かう姿勢、人に優しくするなどの人間性は、乳幼児期に遊びや経験を通して培われた力と大きく結びついています。

幼児教育から小学校教育への接続において大切なことは、小学校教育の先取りをすることではなく、幼児が遊び、幼児期にふさわしい生活が充実、発展することを援助することです。

そして、幼児教育では、幼児期の学びが小学校教育においてどのようにいかされていくのか、小学校教育では、幼児期には何が育ち、どのような経験をしてきたのかということを、相互に知り、理解することが必要です。

○各園のカリキュラムを基本としながら、保育者は幼児教育カリキュラムを共有し、幼児教育から小学校教育への接続を意識します。

○就学前施設の保育者と小学校教職員との合同研修を充実し、幼児教育と小学校教育との共通理解を深めます。

○小学校ブロックや地域の拠点園を中心にし、地域の就学前施設と小学校の子ども同士の交流を深め、小学校へのあこがれの気持ちを育むとともに、関係者等との情報交換会を開催するなど、日常の子どもの姿や課題を共有していきます。

小学校との一層の接続・連携を図る仕組みづくりを行います。



⑤ 保護者支援を行います

子ども一人ひとりが、家庭や地域での生活において、健やかに成長するために、幼稚園、保育所、認定こども園等の就学前施設は家庭、地域との連携を深め、施設や機能を開放し、積極的に子育てを支援していくことが必要です。

○乳幼児期の発達やその重要性について発信します。

- ・各園において、子どもの発達の道筋、基本的な生活習慣を身に付けること、遊びや体験を通して学ぶことなどの乳幼児期の特性とその重要性を発信し、保護者が安心して子育てに向き合えるような支援を行います。
- ・0～2歳児の子育てについては、保育所や認定こども園等で情報発信をしたり、ときには親子で訪れ、他の子どもの様子を見たりすることも、子育てにおいて重要な気付きになります。
- ・子育てが楽しいと思える場面に出会えるよう支援します。

○保護者がつながり、学べる場を作ります。

- ・各園での懇談や研修会をはじめ、幼児教育センターや拠点園などにおいて、保護者が子育てに関する情報を得たり、保護者同士がつながったり、共に学べる場を作ります。

○安心して相談できる場を整えます。

- ・各園において、保護者の子育て不安や悩みを聴き、「一人ではない」「共に子育てをしていく」とのメッセージを発信するなど、安心して相談できる場を整えます。



⑥

地域とのつながりを大切にします

地域では、様々な行事が四季折々行われており、子どもの生活に彩りと楽しみが得られています。

また、就学前の親子遊びの場は、子育ての不安解消や、ご近所づきあいのきっかけを作るとともに、地域の温かいまなざしに見守られています。

子どもにとって地域とは、様々なおとなや価値観と出会い、多様な体験を積み重ねながら育つ場所です。子どもは成長し、やがて地域の一員としてまちづくりを担っていきます。

今後も、幼稚園、保育所、認定こども園等の就学前施設、家庭、そして地域とが、一層つながりを強め総がかりで、子どもを育てていきます。



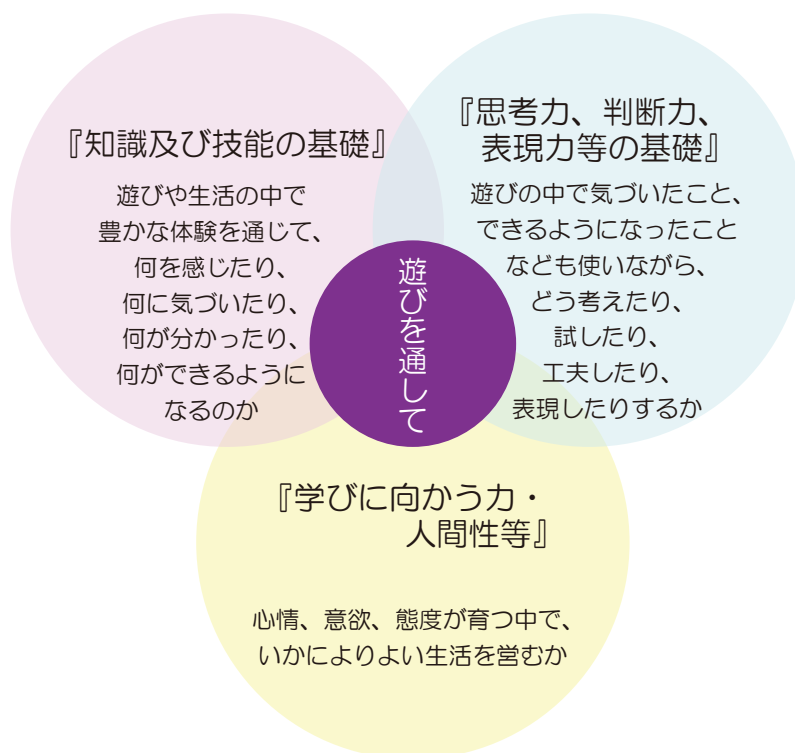


参考資料

幼稚園教育要領、保育所保育指針、 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 30 年 4 月 1 日施行）

幼稚園、保育所、認定こども園は、これまで教育・保育内容として、「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の 5 つの領域を基に、子どもの発達を支援してきました。今回改められた指針では、これら 5 つの領域に加え、「幼児期に育みたい資質・能力」として 3 つ、そして「幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿」がどの施設においても、共通して示されました。

（１）幼児期に育みたい資質・能力 ３つ



文部科学省「幼児教育部会における審議のとりまとめ」（平成 28 年 8 月 26 日）より



(2) 幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿



文部科学省「幼児教育部会における審議のとりまとめ」（平成 28 年 8 月 26 日）より

これら「幼児期に育みたい資質・能力 3 つ」と「幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿」は到達しておかなければならない基準ではなく、めざす方向性を示すものです。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿」を通して、具体的にどのような活動で、何を知ったり、気付いたりしながら学ぶのでしょうか。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」の説明

健康な心と体

- 自分がやりたいこと、没頭できる遊びをすることで、心も体も十分に働かせ、充実感をもつことができます。
- また、遊んだあとは手を洗う、暑くなったら上着を脱ぐなど、生活の中で繰り返す行うことで、「次は何をするのか」、「なぜ」するのかといったことを知り、生活の仕方を知ったり、見通しをもったりするようになります。

- 子どもは身近な環境に関わりながら遊びを見つけます。
遊びながら、どうしたらうまくいくのか、自分は何をしなければいけないのか、目的を達成するために、考えたり、工夫したりします。
ときには、うまくいかずに嫌になるときも、あきらめずにがんばることで、達成感を味わい、自信をもつようになります。

自立心

協同性

- 友達と関わる中で、刺激を受けたり、あこがれの気持ちをもったりしながら、難しいことにも挑戦していくようになります。
- 遊びながら、友達と気持ちや考えを共有し、ときには相手に譲ったり、譲ってもらったりしながら、共通の目的に向かって協力することの楽しさを実感していきます。

- 友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことがわかっていくようになります。
互いに自分の思いを主張して衝突することもありますが、それでも友達と一緒に遊びたいときは「折り合いを付ける」という体験をします。
- そのような経験を経ながら、ルールを理解したり、その必要性に気付いたり、自分の気持ちを調整したり、人への思いやりの気持ちをもつようになります。

道徳性・規範意識の芽生え

社会生活との関わり

- 家族や地域の人など、人とふれあう中で、人との様々な関わり方に気付きます。
- 公園や地域の公共施設などに出かけ、自分で体験しながら、公共の場所や施設を大切に使うことも覚えます。
- 生活の中で、遊びや生活に必要な情報を、インターネットなどで取り入れ、情報を伝え合ったり活用したりするなどして、社会とのつながりを意識するようになります。

思考力の 芽生え

- 身近な環境に関わる中で、不思議なことや面白いことに会い、好奇心を感じて探究するようになります。
「なぜ?」「どうして?」と自分で調べたり試したりしながら、物事の規則性に気づき、物事についてよく考えるようになります。
- 友達の様々な考えにふれる中で、自分とは違う考え方に気づき、考え直したり、友達と一緒に考えたりします。
自分の考えをよりよいものにするために、考えたり試したり、友達と議論したりなど、そのプロセスに学びがあります。

- 子どもが出会う環境には、人工物と自然物がありますが、自然物の一つとして同じものではなく、匂い、感触など子どもの好奇心をかきたてます。
- 身近な動植物にふれ、接し方を知り、考え、愛着をもち、命あるものとしていたわり、大切にすることがもてるようになります。

自然との 関わり・ 生命尊重

数量・図形、 文字等への 関心、感覚

- 遊びや生活の中で、数や図形、標識や文字にふれ、3～4歳くらいになると、それらを使うようになります。
- 文字は一つ一つ形が異なることに気づき、文字がわかったり、読み方を知ったりします。
- 文字や数などをわかる喜びや使う楽しさから、その必要性を感じ、興味や関心、感覚をもつようになります。

- 言葉は、子どもが自分の気持ちを伝えたり、おとなの言葉を聞いたり、また絵本や物語の言葉にふれたりすることで育っていきます。
日々の生活の中で、言葉にふれ、刺激を受け、様々な場面や活動の中で、意味と表現をセットにして身に付けていき、言葉による伝え合いを楽しむようになります。

言葉に よる 伝え合い

豊かな 感性と 表現

- 美しいものや優れたもの、心を動かす出来事などに会ったとき、そこから何かを感じとる心を「感性」と言います。
様々な思いや感情をいろいろなものを使って表すことを「表現」と言います。
- 生活の中で、喜びや感動、驚きなどを味わうことで、感性は豊かになり、子どもの心は動き、表現したくなります。
その表現方法は、身振りで表したり、絵を描いたり、何かを作ったり…。
大事なことは、上手に表現することではなく、自分なりに表現することを楽しむことです。
そして、まわりのおとなは温かく受け止めることです。

伊丹市内の就学前教育・保育施設

平成30年(2018年)4月1日現在

幼稚園

	所在地	電話番号
1 (公立) 伊丹幼稚園	桜ヶ丘 1-5-20	072-784-4872
2 (公立) 稲野幼稚園 ★	昆陽 1-2-13	072-783-5105
3 (公立) 南幼稚園 ★	御願塚 2-2-23	072-772-2331
4 (公立) 緑幼稚園 ★	大鹿 5-6-7	072-784-4938
5 (公立) 桜台幼稚園 ★	中野西 4-92	072-783-4672
6 (公立) 天神川幼稚園 ★	荒牧南 3-1-21	072-783-4671
7 (公立) ささはら幼稚園 ★	野間 1-10-16	072-783-4670
8 (公立) みずほ幼稚園	瑞穂町 3-46	072-782-8552
9 (公立) ありおか幼稚園 ★	伊丹 7-1-30	072-782-8397
10 (公立) はなさと幼稚園 ★	寺本 2-77	072-781-6456
11 (公立) こやのさと幼稚園 ★	山田 2-4-2	072-779-4165
12 (公立) せつよう幼稚園 ★	昆陽南 2-1-7	072-779-8660
13 (公立) すずはら幼稚園 ★	御願塚 6-3-50	072-779-6138
14 (公立) おぎの幼稚園	大野 2-159	072-770-2460
15 (公立) いけじり幼稚園	池尻 6-231	072-777-4102
16 (公立) こうのいけ幼稚園	鴻池 4-4-4	072-779-7825
17 (私立) 王たるキリスト幼稚園	梅ノ木 5-3-1	072-772-2489
18 (私立) 二葉幼稚園	梅ノ木 2-1-10	072-772-6641
19 (私立) 月影幼稚園	中央 2-8-30	072-775-0221
20 (私立) ロザリオ幼稚園	高台 5-27	072-782-3837
21 (私立) 西伊丹幼稚園	寺本 5-373	072-783-2351
22 (私立) 美鈴月影幼稚園	昆陽東 5-2-61	072-781-0696
23 (私立) 野間幼稚園	野間 8-9-7	072-779-7004

★印の施設は幼児教育推進計画における再編対象施設

認定こども園

	所在地	電話番号
1 (公立) 神津こども園	森本 1-8-25	072-782-0200
2 (私立) 西伊丹保育園	寺本 5-373	072-783-2351
3 (私立) いずみ幼稚園	荒牧 7-6-21	072-778-0122
4 (私立) 白ゆり幼稚園	春日丘 3-50	072-782-3077

保育所など

	所在地	電話番号
1 (公立) 中央保育所	行基町 1-50	072-779-6643
2 (公立) 西保育所 ★	南野北 1-3-42	072-781-1912
3 (公立) 桜台保育所 ★	西野 2-85	072-783-0372
4 (公立) 北保育所	北園 1-13	072-770-1217
5 (公立) こばと保育所 ★	稲野町 5-76	072-772-1074
6 (公立) ひかり保育園	堀池 3-7-26	072-779-5400
7 (公立) 荻野保育所	荻野 8-33-5	072-770-4352
8 (私立) 伊丹保育所	伊丹 5-1-5	072-782-3633
9 (私立) 有岡乳児保育所	西台 3-7-1	072-772-4791
10 (私立) 長尾保育所	北野 3-48-2	072-783-6793
11 (私立) 伊丹うち保育園	野間北 5-3-1	072-781-1700
12 (私立) あそかの木保育園	中野西 1-165	072-777-3890
13 (私立) 伊丹ひまわり保育園	昆陽池 1-39	072-777-2678
14 (私立) すぐり保育園	東有岡 1-18-20	072-787-6501
15 (私立) クレヨン保育園	池尻 3-430-1	072-777-4732
16 (私立) 風の子保育園	西野 5-309-2	072-767-1087
17 (私立) 自然保育園	鴻池 4-9-12	072-777-5890
18 (私立) 夢の木保育園	瑞穂町 4-77	072-772-7881
19 (私立) 伊丹クレセール保育園	北本町 2-131-1	072-773-7671
20 (私立) ボビズナーサリースクール伊丹	中央 1-1-15F	072-744-1991
21 (私立) 伊丹森のほいくえん	稲野町 3-3-1F	072-779-7699
22 (私立) アートチャイルドケア伊丹	平松 5-2-17	072-781-0230
23 (私立) すくすくキッズ保育園	東野 1-21-1	072-743-9090
24 (私立) 心音つばさ保育園	瑞原 2-52	072-777-0283
25 (私立) 千僧森のほいくえん	千僧 5-158-1	072-741-4923
26 (私立) やわらぎ保育園	伊丹 2-3-27	072-778-5880
27 (私立) 伊丹くじら保育園	清水 2-3-28	072-768-9415
28 (市立) みどり保育園	昆陽池 1-100	072-777-5775
29 (私立) 宮ノ前ほたる保育園	宮ノ前 3-4-23	072-703-1102
30 (私立) イタミ・サン保育園	中央 5-2-24	072-777-5144
31 (私立) 伊丹くじら小規模保育園	南本町 1-1-12-1F	072-782-9410
32 (私立) 伊丹はぐくみ保育園	若菱町 2-46	072-784-8993
33 (公立) こども発達支援センター「あすはる」	千僧 1-47-2	072-784-8128

★印の施設は幼児教育推進計画における再編対象施設

幼児教育ビジョンの策定趣旨と経過

社会の変化は加速度を増し、予測困難なこれからの時代を生き抜いていく子どもたちには、変化を前向きに受け止め、未来を切り拓いていく資質や能力が求められます。

また近年、幼児期に忍耐力や自制心、自尊心、協調性といった非認知的能力を養うことが、その後の人生を大きく左右するといった研究も示され、世界的に幼児教育の重要性への認識が高まっています。

このような中、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領が改訂され、すべての就学前施設において、同様の教育・保育の質が担保されるとともに、小学校教育との接続についても重視され、平成 30 年度から施行されます。

本市におきましては設置者を問わず、就学前の教育・

保育に携わる幼稚園、保育所（園）、認定こども園、そして、家庭や地域住民が一体となって、豊かな自然や遊びを通して、乳幼児期にあるすべての子どもが健やかに成長できるよう環境を整えていくことが重要と認識しています。

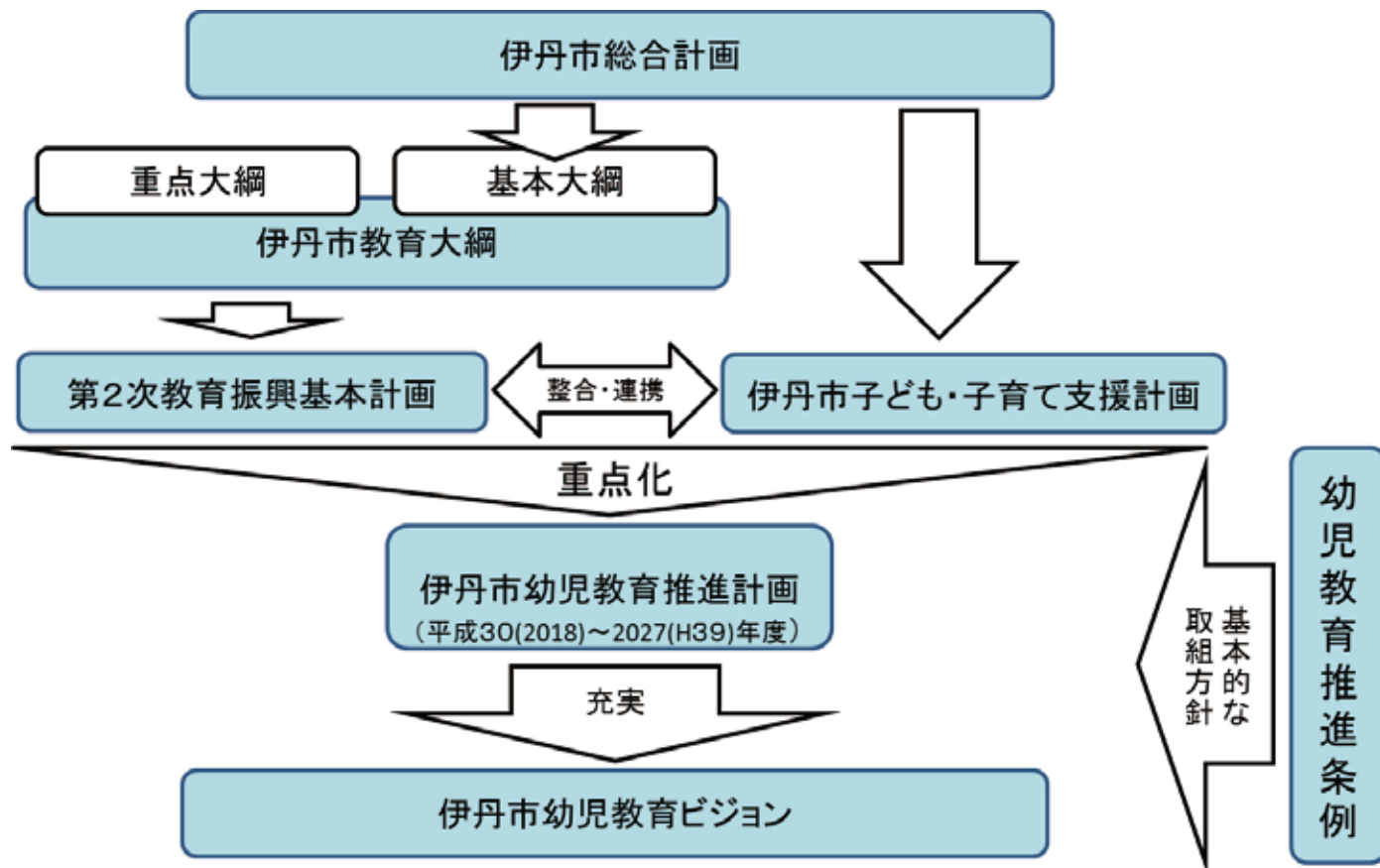
新幼稚園教育要領等に示す「幼児期に育みたい資質・能力」や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえ、本市の自然や文化、市民力などのポテンシャルを活かしながら、伊丹で育った子どもとしてのアイデンティティを育んでいきたいと考えています。

これらのことから、伊丹市としての幼児教育理念と育てたい子ども像等について定める幼児教育ビジョンを策定いたします。

伊丹市幼児教育ビジョン策定委員会実施報告

回 数	日 付	場 所	内 容
第 1 回	9 月 12 日（火）	市役所 3 階議員総会室	「幼児期の子どもや取り巻く環境について」 ・現状と課題
第 2 回	10 月 29 日（日）	市役所 3 階議員総会室	「伊丹市における幼児教育について」 ・基本理念、育てたい子ども像について ・伊丹のよさを活かした教育とは
第 3 回	12 月 22 日（金）	中央公民館大集会室	「伊丹市における幼児教育について」 ・育てたい子ども像について
第 4 回	2 月 20 日（火）	総合教育センター 研修室	「伊丹市幼児教育ビジョン」（素案） ・育てたい子ども像と育てたい力について ・素案について
第 5 回	3 月前半	書面開催	「伊丹市幼児教育ビジョン」（素案）
第 6 回	3 月 12 日（月）	市役所 3 階議員総会室	「伊丹市幼児教育ビジョン」（素案）
第 7 回	3 月 27 日（火）	教育長室	「伊丹市幼児教育ビジョン」答申受領

幼児教育ビジョンの位置づけと計画期間



計画期間は5年間とし、2022年度（平成34年度）にビジョンの充実を図るための見直しを行っていきます。

伊丹市幼児教育ビジョン策定委員会 委員名簿

(敬 称 略)

区分	氏名	選出団体
学識経験者	しめだ ト田 真一郎 (会長)	常磐会短期大学幼児教育学科
	いずはら 出原 大 (副会長)	園田学園女子大学短期大学部
	とみおか 富岡 量 秀 (副会長)	大谷大学短期大学部幼児教育保育科
	おおがた 大方 み か 美香	大阪総合保育大学児童保育学部
関係団体を代表する者	いちかわ 市川 い く お 伊久雄	伊丹市自治会連合会
	いとう 伊藤 ぶん ご 文吾	伊丹市P T A連合会
	おおにし 大西 けいいち 慶一	私立保育所長代表 心音つばさ保育園
	さえき 佐伯 としこ 聰子	伊丹市私立幼稚園連合会 学校法人西伊丹学園 西伊丹幼稚園
子どもの保護者	あ が 阿嘉 まさる 優	公募委員
	ふじもと 藤本 み わ 美和	公募委員
市 民	ば でん 馬殿 みどり 翠	公募委員
関係行政機関の職員	たにぐち 谷口 みすず 美鈴	伊丹市立施設長会 伊丹市中央保育所
	はやし 林 たかひろ 隆浩	小学校長会 伊丹市立稲野小学校
	ほそかわ 細川 てる み 照美	公立幼稚園長会 伊丹市立こうのいけ幼稚園



伊丹市幼児教育ビジョン

itami
伊丹市

発行：伊丹市教育委員会事務局
幼児教育施策推進班
〒664-8503 兵庫県伊丹市千僧 1-1
Tel (072) 780-4313
発行年月：平成 30 年（2018 年）3 月